

中谷元後援会「東京国政報告会」参加ツアー紀行

右城 猛

1. まえがき

2月15日に開催された「平成21年度自由民主党高知県第二選挙区支部大会」に参加したとき、配布された封筒の中に、会議資料と一緒に「東京国政報告会参加ツアー」の参加申込書が入っていた。ツアーの予定表には防衛省や国会議事堂の見学も含まれていた。防衛省や国会議事堂の内部を見学できる機会は滅多にない。「百聞は一見に如かず」である。年度末の忙しい時期であったが、幸いにも予定が入っていなかったため夫婦で参加した。

ツアーの日程は、下記の表のようであった。参加人数は中谷元衆議院議員、奥方の美弥子様、そのご両親、秘書の長野弘昌氏ら総勢44名であった。



市ヶ谷台の防衛省正面

日 時	見学先
9日 10:40	高知龍馬空港より羽田空港へ
13:30～15:00	市ヶ谷台の防衛省見学
15:15～16:15	国会見学
16:30	ホテル到着
18:30～20:00	中谷元国政報告会
10日 9:30	ホテル出発
10:40～11:30	横浜山下公園散策
11:45～12:30	中華街の聘珍楼で昼食
12:30～14:30	中華街散策
15:30～17:00	お台場フジテレビ見学
18:45	羽田空港より高知龍馬空港へ



防衛省の案内係の女性より儀仗広場で、防衛大臣や統合幕僚監部が執務する庁舎A棟の説明を受ける。

2. 防衛省

羽田空港からニュー東京観光の貸切バスに乗り、首都高速1号羽田線を通して防衛省のある市ヶ谷まで行く。バスの車窓から見る景色は、モノレールや地下鉄から見るよりも格段に素晴らしい。中谷議員がマイクを握って観光ガイドをしてくれた。きっと事前に準備をされていたのだと思うが、心配りには敬服させられた。

首都高速は渋滞もなく、予定通り防衛省に到着。正門から中に入ると、事前に申し込みしてあった本人であることを確認するために身分証明書の提示を求められた。

防衛省の職員に、市ヶ谷の歴史について説明を受けた後に防衛省内に案内され、庁舎や市ヶ谷記念館の説明を受けた。



市ヶ谷記念館。元々は檜町(六本木地区)にあったものを平成12年に移転している。



大講堂。戦後，極東国際軍事裁判(東京裁判)の法定として使われた場所。

ばれる係員の案内で，本会議場傍聴席，御休所，皇族室，中央広間，前庭などを見学した。



衆議院本会議場



大講堂の壇上へ上るための階段。一般用と天皇陛下専用の2つの階段が並列して造られている。写真は陛下占用の階段。



会議場後方の一般傍聴席。傍聴席の前にはマスコミ用のカメラを取り付けるための脚が110脚据えられていた。



二階の旧陸軍大臣室。1970年(昭和45年)に三島由紀夫が割腹自殺を図った場所。扉に刀傷が残っていた。



第一委員室

3. 国会議事堂

国会議事堂の内部は，左右ほぼ同じ造りになっていて，正面から向かって左側が衆議院，右側が参議院になっている。手荷物検査を受けた後，衛視と呼



国会議事堂内の廊下に敷かれている赤じゅうたん。議事堂には毎日5千人の訪問者があり損傷するので、年1回絨毯を新しく取り替えているということであった。1階の廊下の絨毯は、痛みや色あせがひどかった。2階のお古が回されているためという説明があった。



記者室



天皇陛下が控え室にはいるための専用の階段。



見学を終えて正面に出る。耳に付けているイヤホンで係員の説明を聞く。



衆議院議員の控え室



前庭には全国の都道府県の県木が植えられている。写真は京都府の「きたやますぎ」。高知県の木は魚梁瀬杉。



議事堂正面の前庭で記念撮影

4. 中谷元国政報告会

16時30分に宿泊先となる赤坂の「ANA インターコンチネンタルホテル東京」にチェックイン。

18時30分よりホテル地下一階の「プロミネンス」で「衆議院議員中谷元国政報告会」。昨年までは、「中谷元を育てる会」であったが、今年が第1回目の国政報告会ということであった。

加藤紘一、谷垣禎一、山崎拓、与謝野馨、細田博之、園田博之、佐藤勉の順番に各衆議院議員の挨拶があった。

19時20分より中谷元議員による国政報告があった。その中で中谷議員は、下記のような政治姿勢を述べられた。

- ・ 経済政策として、麻生総理の基本的な考えに問題はない。
- ・ 大学では道元を学んだ。
- ・ 幕末の動乱期に土佐からはたくさんの活躍した人が出たが、筋書きはなかった。戦いながら道筋を見つけていった。
- ・ 世の中を見るには、魚の目、鳥の目、虫の目の

見方がある。

- ・ 浜口雄幸の言葉に「政治は国民の最高の道徳」というのがある。



挨拶にたたれたトップは加藤紘一議員。中谷議員の生みの親で、仲人でもある。小泉劇場、小沢というもう一つの自民党が終焉を迎えつつあるという発言があった。



中谷議員が所属する派閥の長である谷垣禎一議員からは、「中谷議員は筋を通す代議士」という挨拶。



自由民主党幹事長である細田博之からは、中谷議員はソマリア海賊問題のエキスパートだけではなく、今後は自民党の「郵政民営化推進に関する検討・検証プロジェクトチーム」のリーダーとしても活躍してもらいたいという挨拶があった。



山崎拓議員からは、「私は中谷議員の育ての親。中谷議員は、金太郎、桃太郎のような人物」という挨拶があった。



園田博之議員からは、中谷議員は正義感があり、誠実で、国民の目線を忘れていないという話があった。また、選挙の際には仲間の議員の応援をするようにとの要請をされておられた。



与謝野馨財務大臣・内閣府特命担当大臣（金融・経済財政政策）は、挨拶の中で「宗派を変える」と発言された。これまで財政健全化主義であったが、経済危機に対応するには財政出動と財政赤字の拡大もやむを得ないという考えを示された。この発言は、翌朝の朝日新聞記事として取り上げられていた。



佐藤勉国家公安委員長からは、中谷議員が実直な性格であるという話があった。



中谷議員による国政報告



介良組と土佐山田組。後列中央の背が高い女性は、飛行機で席が隣であった中村和子さん。



川崎二郎議員の音頭で乾杯。依光後援会会長、濱田副会長も壇上に登って乾杯をした。



依光孝夫後援会会長による中締め挨拶(20時)



左より桑名さん、坂本良子さん、松本操さん、妻の絹枝。国政報告会後のパーティはスタンディング・ビュッフェ形式。会場の中央には、たくさんの豪華な料理が並べられていた。一流ホテルだけあって、料理の味は抜群。特に、ビーフステーキ、ケーキは人気が高かった。

5. 横浜山下公園

ホテルを9時30分に出発。ニュー東京観光の貸切バスで横浜に向かう。道中、全員が自己紹介をする。中谷議員の奥様の両親に当たる桑名さん夫婦、依光後援会会長夫婦など夫婦での参加者も多かった。北川村からは9名も参加されているのには驚いた。



横浜の山下公園



山下公園で記念撮影



山下公園の名物「赤い靴をはいた女の子像」



中谷議員の秘書をされている長野弘昌氏の実の姉になる小松恵子さん。

後方のタワーは、横浜港開港 100 周年記念行事として 1961 年に建設された横浜マリンタワー。

6. 横浜中華街

中華街大通りに面した聘珍樓(へいちんろう)横浜本店で昼食。ここは、1887 年創業で、横浜で最も大

きな広東料理の老舗である。料理の味に皆さん大満足の様子であった。

食事の後は、中華街を自由散策。



バスガイドが薦めてくれた関帝廟(かんでいびょう)を見物する。関帝廟の主神は三国志に出てくる関羽(かんう)。華僑の心の拠り所として明治 6 年に建立されたが、大正 12 年の関東大地震で倒壊。再建された二代目は昭和 20 年の戦災で焼失。三代目は昭和 51 年に火事で焼失。現在の関帝廟は平成 12 年に再建された四代目。



行列ができる豚まんの店



横浜中華街

7. フジテレビ見学

お台場のフジテレビに着くと、数名の職員に迎えられた。一人は中谷議員の妹さん。とても美人。

テレビ局内のエレベーターに乗れる定員が24名であったためだと思うが、2つの班に分かれて12階の報道局、16階の技術局、9階のV8スタジオ、3階の美術部と「とくダネ」スタジオ、25階の球体展望室、7階のフジテレビショップを案内してもらった。

報道局は、朝の「めざましテレビ」、お昼の「FNNスピーク」、夕方の「FNNスーパーニュース」、夜の「LIVE2006 ニュース JAPAN」などニュース番組を製作・報道しているところ。国際衛星部、外信部、政治部、経済部、社会部、ニュース制作部、円卓などのデスクに別れていた。報道局は13階部分が吹き抜けになっており、私たちは13階の通路から見下ろすように見学した。安藤優子、木村太郎などのテレビで馴染みのあるキャスターが円卓に座って、夕方の5時から始まるFNNスーパーニュースの準備をしている最中であった。

技術局は、フジテレビの番組を発信する場所。放送局の心臓部に当たるという説明であった。放送がスケジュール通りに正確に行われているかを24時間態勢で監視している。

V8スタジオはスポーツ番組を製作・報道しているところ。天井には130個の照明が設置されていて、冬場でも熱く冷房をかけている。ここは撮影がOKということであったので、記念撮影をする。

3階の美術倉庫にはベニヤ板や発泡スチロールで作ったドラマのセットに使う大道具や、いろいろな品物が整理整頓して保管されていた。大道具を作る工作室もあった。

3階には小倉智昭がメインキャスターを務める朝8

時から番組「とくダネ」のスタジオもあった。ここも撮影OKということで記念撮影をする。

25階の球体展望室は、地上約160m、270度の大パノラマが展開する展望台。レインボーブリッジや東京タワーを展望することができる。

ここには、バーチャルスタジオ「フジテレビはちたまスタジオ」があり、スポーツ番組に平井理央、本田朋子アナウンサーと共演することができる。

出演すれば録画したDVDを1500円でくれる。

見学会の最後は、7階のフジテレビショップでお土産を買う。

フジテレビのホームページによると、見学できるエリアは、1階及び7階にあるカフェ、ショップ、24階の球体展望室ということになっている。ニュー東京観光自動車のバスガイド嬢も、「何度も来ているが、24階の球体展望室などの見学エリアしか観たことがなかった」と話されておられた。一般には見学できないとても貴重な体験をしたことになる。



9階のV8スタジオ



中央は美弥子夫人、その右は土佐町の上田澄子さん。



3階の「とくダネ」のスタジオ



皆さんの期待に応え、妻の反対を押し切って私も出演。画面左が本田朋子アナ，中央が平井理央アナ。私のしゃべりが遅いため、女性アナのしゃべりと重なってしまい、皆さん大笑い。



25階の球体展望室



25階の球体展望室から撮影したレインボーブリッジ



「フジテレビはちたまスタジオ」に出演した秘書の長野さん。政治家を目指しているというだけあって、しゃべり方がとてもお上手。

8. あとがき

私はこれまで政治にはあまり関心を持ってこなかった。土木技術によって安全安心な郷土を作ることが私の社会的ミッションであると考えていたからである。

しかしながら、わが国の最近の状況を見るにつけ、このままで本当に良いのかと思うようになった。社会、経済、産業、教育すべてがおかしくなっている。建築耐震強度偽装、食品偽装、年金偽装、教員採用偽装などの偽装問題が次々と発覚している。サブプライムローンに端を発した世界金融不況は、ネズミ講のような詐欺まがいの投資ゲームが原因であるような気がする。

目先のことだけに捕らわれて本質を見失っている。道徳や社会倫理が無くなっている。実態を伴わない成果主義とマニュアル化が悪の根源であるような気

がする。

慈愛に満ち明るく幸せな社会を取り戻すには、政治を変えなければならない。政治が悪いのは有権者の責任でもある。政治に関心を持ってこなかったことを強く反省している。

中谷元国政報告会に出席させていただき、新聞やテレビでしかお目に掛かったことがない大物代議士の挨拶を聞かせてもらったが、次の日本を引っ張って行くことができるのは、中谷元さんしかいないという思いを強く持った。

幕末の動乱期には、高知から坂末龍馬や板垣退助など近代日本の礎となる多くの政治家を排出した。昭和初期の動乱期には、崇高な政治理念を持った濱口雄幸が日本をリードした。戦後の日本を復興させた立役者は吉田茂である。歴史の大きな節目には必ず高知の政治家が活躍している。

平成の動乱期を乗り切るには、高潔で哲学、信念がしっかりした政治家であると同時に、発言が一貫していてぶれない人がリーダーシップを発揮する必要がある。そのような内閣総理大臣の器として、中谷元さんが最も適している。歴史が繰り返されることを信じている。

今回のツアーは、中谷夫人の美弥子さんの発案で初めての企画であったそうであるが、実に素晴らしく、期待していた以上に満足できる内容であった。

参加された皆さんは、中谷元衆議院議員を「元ちゃん」と呼び、アットな雰囲気になった「中谷元ファンクラブ」という印象であった。私達夫婦は、この会に初めて参加させていただいたにも関わらず、皆さんから親しく親切にさせていただき、本当に感謝している。

帰路の飛行機で、中村和子さんから和歌をいただいた。今回の旅の様子がよく表されている。最後になって恐縮であるがここに紹介させていただく。

3月9日

政界を荷なう 未来の立役者
見よ大空を 鳳舞するらむ
良き時代を願いて 集う今日の会
乾杯の杯 五臓沁み入る
一本の名も無き 径の小草にも
生きる力を肌感せむ
ひとひらの花びらなれど
流れゆく 命の退り 旅路はるけく

3月10日

車窓よりのぞむ 優雅な富士山に
何やら嬉し 今日の旅かな
同士らの力こもりし 自己紹介
人の縁の深み想いつ
波打ちし勢い強し 横浜の
波にただよう かも群れ観む
夫在らば共に旅せむ 大都会(東京)
思わず熱く 胸痛む午後

中谷元さん、そしてツアーに参加された皆様のご健康と今後益々のご活躍、そしてご多幸を心よりお祈り申し上げます。

[平成21年3月12日・記]

追記

この紀行文は、私のホームページ「右城猛の研究室」の中の「私の行動記録」に掲載しています。

<http://www.daiichi-c.co.jp/authors/ushiro/index.htm>